

伊那市美術館協議会会議録

件名	令和6年度 第2回 伊那市美術館協議会
----	---------------------

日時	令和7年3月7日（金）午前10時～10時41分
場所	信州高遠美術館 2階 研修室

出席者

関係者		教育委員会	
職名	氏名	職名	氏名
会長	大脇 弘造	教育長	福與 雅寿
職務代理者	北原 秀志	教育次長	三澤 豊
委員	伊東 重明	生涯学習課長	矢澤 浩幸
	山崎 重幸	美術館館長	武井 文一
	中山 勝司	美術館副館長	馬場 文教
	黒河内 京子		
	今牧 博美		
	伊藤 仁八		
欠席者			
委員	原 未那美		

会議の内容	1 開 会 2 あいさつ ・教育長 美術館の運営にご理解ご協力賜り感謝申し上げます。 これから高遠は、一年で一番美しい季節を迎える。観光分野では、海外からの旅行客数がコロナ前を上回るなど活況。今シーズンの高遠城址公園の賑わいを期待する。 本年の観桜期に開催する展覧会は、「収蔵作品秀作展 伊那に伝わる美の系譜」と題し、信州高遠美術館の収蔵作品から選りすぐりの作品を4つのセクションに分けて展示し、明治から現在へと続く伊那に伝わる美の流れを紹介する。 本日の協議会では、信州高遠美術館が多くの皆さんの利用する素晴らしい美術館になり、ひいては伊那市の文化芸術の向上にもつながるよう、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。 ・会長 委員の皆様の協力を得て、信州高遠美術館が素晴らしい美術館になるよう、この会議を進めたい。忌憚のない意見をお願いしたい。 3 協議事項 (1) 令和6年度事業について (事務局から資料により説明) アの企画展について説明する。 ・『気韻生動』の画人 池上秀畝生誕150年展」の入館者数は5,117人であった。入館料等の収入が1,634,840円、軽費が914,513円となり、70万円強の黒字となった。 ・「美術交流展 2024in 高遠」は、会期中の入館者数が358人。会期中の入館料は無料とし、主催者側から貸館料をいただき開催。 ・「江崎孝坪生誕120年展」は、美術交流展と次の「山岸主計没後40年展」と同時開催。入館者数1,398人で、入館料221,800円であった。 ・「若手アーティスト展 麓芸落合」は、若手作家を応援する事業として立ち上げ、今回で7回目の開催。入館者数が1,383人、入館料261,000円であった。予想を上回る入場者数であった。 ・「付曉東個展 浮図」は、円室ギャラリーが貸館規程に基づき行った企画展。第二展示室の「新収蔵作品展」と同時開催。入館者数341人であった。 ・「地域のお宝展Ⅱ」は、昨年に引き続き2回目の開催。今年は個人が所有している作品を中心に展示した。入館者数が693人、入館料134,800円であった。 ・明日、3月8日から5月18日まで、「収蔵作品秀作展～伊那に伝わる美の系譜～」を行う。郷土作家、原田コレクションの作品はじめ約1,900点ある美術館所蔵作品の中から選りすぐりを4つのセクションに分けて展示し、明治から現在へと続く伊那の美の流れを紹介する。
-------------------------------	---

イの市民ギャラリー展は、展示室で開催する展覧会に連動した展示が 5 回、小中高校と連携した展示が 2 回、地域で活動する若手作家や美術愛好家の発表の場を提供する展示が 5 回の全部で 12 展示行った。

そのうち、「小中学生が感じた池上秀畝の魅力展」は、池上秀畝生誕 150 年展をきっかけにして、伊那市 ICT 活用教育推進センターが秀畝のスケッチ帳をデジタルブック化し、小中学校で教材として活用し、授業の一環として子どもたちが制作した作品を展示した。

ウのアートスクール、エの楽々講座は、全 12 講座 14 回実施し、参加人数は、369 人、受講料収入は、163,000 円であった。

オのミュージアムコンサートは、8 月 4 日に「布施雅也&石川みどり 清夏に贈るコンサート」を、コロナ前以来久々に実施し、入場者 111 人、チケット収入 203,000 円であった。3 月 15 日に「川畠成道ヴァイオリンリサイタル」を予定している。

カの貸館事業は、ロビーを利用した音楽会等が 9 件、展示室貸館規程に基づく展覧会が 2 件であった。

キの東京藝術大学連携事業では、10 月 12 日に子どもワークショップ「高遠焼でデコ土器！」を実施した。参加者は、34 人であった。ワークショップで制作した作品は、伊那市創造館と信州高遠美術館に展示した。

クのその他として、空調設備改修工事と LED 照明改修工事実施設計を実施した。LED 照明改修工事は、令和 7 年度に実施する。

(質疑応答)

・委員

公民館事業で美術館を訪れたとき、藝大連携事業「高遠焼でデコ土器」の作品展示を見た。地元の小学生を巻き込んだ事業ということで素晴らしい事業であると感じた。また、「小中学生が感じた池上秀畝の魅力展」も地元の小中学生と連携した事業が美術館で行われることは素晴らしいことだと感じた。参加校と参加人数はどうだったか。

・事務局

手元に資料がないが、作品の応募総数は約 500 点だった。作品は、紙や立体の作品が約 200 点、デジタルの作品が約 300 点であった。紙や立体の作品は、市民ギャラリーに展示し、デジタルの作品は、大型ディスプレイ 4 台に映し出す形でご覧いただいた。

会 議 の 内 容	※参加校数 8 校 作品数 526 点（うち、美術作品数 182 点、デジタル作品数 344 点） （承 認） （２）令和 7 年度事業について （事務局から資料により説明） ア 企画展 （ア）「収蔵作品秀作展 伊那に伝わる美の系譜」（全館） 3 月 8 日（土）～ 5 月 18 日（日） （イ）【貸館】「美術交流展2025 in 高遠」（第 1 展示室） 5 月 24 日（土）～ 6 月 8 日（日） （ウ）「郷土作家 4 人展」（第 2 展示室） 5 月 24 日（土）～ 6 月 8 日（日） （エ）「現代作家 6 人展」（第 1・2 展示室） 6 月 14 日（土）～ 7 月 27 日（日） （オ）「若手アーティスト展」（全館） 8 月 2 日（土）～ 10 月 5 日（日） （カ）【貸館】「円室ギャラリー企画展」（第 1 展示室） 10 月 11 日（土）～ 10 月 26 日（日） （キ）「郷土作家展」（第 2 展示室） 10 月 11 日（土）～ 1 月 30 日（金） （ク）「戦後 80 年展－創造の翼を広げる作家たち－」（第 1 展示室） 11 月 1 日（土）～ 1 月 30 日（金） ※ LED 照明改修工事（1 月初旬～ 3 月中旬） （ケ）「東京藝術大学連携 40 年展」（全館） 3 月 21 日（土）～ 5 月 31 日（日） （エ）の現代作家 6 人展では、現在活躍中の地元作家を取り上げる。美術館としては初めての取組である。 （ク）の戦後 80 年展は、令和 7 年が戦後 80 年に当たることから、市内の他の文化施設との連携事業として、戦中戦後、収蔵作品の中から精力的に活動した作家を紹介する。今も続く戦争と平和をテーマにした展覧会。 （ケ）の東京藝大連携 40 年展は、伊澤修二記念音楽祭に始まる藝大との連携であるが、これまで美術部門においても平山郁夫展、福井爽人・宮田亮平展、モリカラモリへ展等を行っている。藝大との連携を重視する中で、点から面に広げる取組として行う展覧会。 イ 市民ギャラリー展 （ア）「高遠石工写真展」 3 月 8 日（土）～ 5 月 18 日（日） （イ）「美術交流展2025 in 高遠」 5 月 24 日（土）～ 6 月 8 日（日） （ウ）「高遠三女展」 6 月 14 日（土）～ 7 月 2 日（水） （エ）「天野マサカツ油彩画展」 7 月 6 日（日）～ 7 月 27 日（日） （オ）「若手アーティスト展」 8 月 2 日（土）～ 10 月 5 日（日）
-----------------------	---

- (カ)「ジェッター・ジョーンズ写真展」 10月11日（土）～10月26日（日）
- (キ)「野澤繁子 身近な描写展」 11月1日（土）～11月24日（月）
- (ク)「伊藤岬グループ展」 11月29日（土）～12月21日（日）
- (ケ)「アートスクール作品展」 1月4日（日）～1月18日（日）
- (コ)「高遠高校芸術フェスティバル」 1月19日（月）～2月1日（日）
- (サ)「東京藝術大学連携40年展」 3月21日（土）～5月31日（日）

ウ アートスクールは、13 講座を予定している。

エ ミュージアムコンサートは、小坂紘未ピアノリサイタルを予定している。

オ 貸館事業は、今現在、展示室2件、ロビー8件を予定している。

カ 東京藝術大学連携事業は、来年度も子どもワークショップを中心に行う。

キ その他、施設整備事業として、LED照明改修工事、受変電設備改修工事、無線LAN設備構築工事を行う。

（質疑・意見なし 承認）

4 報告事項

（1）令和7年度展示室貸館規程に基づく展覧会について

（事務局から資料により説明）

前回の協議会で承認いただいた2件を確認の意味で報告する。

ア 「美術交流展 2025 in 高遠」

主催は、美術交流展 2025 in 高遠 実行委員会で、会期は、令和7年5月24日（土）から6月8日（日）まで。

イ 「円室ギャラリー企画展」

主催は、円室ギャラリーで、会期は、令和7年10月11日（土）から10月26日（日）まで。

（2）令和6年度美術品の寄附等について

（事務局から資料により説明）

アの寄附作品については、前回の協議会後に54点の寄贈があった。

家の処分や身辺整理等に伴う寄附、作家のご親族からの寄附、作品の散逸防止や保存活用のための寄附等があった。

前回報告分8点と合わせて、令和6年度中の寄附数は、62点になる。

イの寄託作品については、前回の協議会後に6点の寄託があった。

前回報告分2点と合わせて、令和6年度中の寄託数は、8点になる。

会議の内容	(質疑応答) ・委員 寄託作品に保険をかけているか。 ・事務局 寄託作品に保険はかけていない。 全ての作品に保険をかけることは経費面からも難しい。これまで事故は起こっていない。 (承認) 5 その他 ・事務局 前回の協議会で作品購入の案件があることから、美術資料等選定部会の開催を予定している旨の説明をしたが、作品購入については予算面等の課題もあって先送りになっており、当面、部会の開催予定はない。現在、その作品は、寄託を受けて美術館で保管している。 3月31日をもって長年勤められた武井館長が退任する。後任は、今後発表される。 ・館長 信州高遠美術館には、館長就任前も含めて30年余り勤めた。この間、関係する皆様に大変お世話になったことに感謝申し上げます。 ・事務局 4月から市役所の組織が一部変わる。この協議会に関係するところでは、文化スポーツ部の文化交流課が所管していた事業が、教育委員会の生涯学習課の担当になる。東京藝術大学との連携事業も含まれており、藝大とのつながりが益々深くなる。よろしくお願いいたします。 6 閉 会 明日から始まる新しい展覧会の周知に努めてもらいたい。 以上をもって美術館協議会を終了する。
-------	---